



祝 辞

山形県立米沢商業高等学校商友会会長 鈴木 陽市

この度は母校米商の創立118周年の記念日、誠におめでとうございます。明治35年に産声を上げた母校もまもなく120年の歴史を数える学校となりました。この間多くの卒業生が日本のみならず海外までに活躍の場を広げ、様々な分野で活躍をされておりますことは申すまでもないことであります。いま、「新型コロナウイルス」の問題で世界中が苦しんでおりますが、卒業生諸氏も各々の場所で踏ん張ってくれておりますことを切に願うばかりです。

さて、いまから約100年前の大正7年から大正9年にかけて、今でいう「スペイン風邪」が大流行したことがありました。ある村では1000人の住民のうち970人が感染したこともあったそうです。これが100年に1度の大流行と言われる所以であります。では当時の米商はどんな状況であったかと言いますと、大正6年の「米沢大火」により校舎が全焼し、2年後に新校舎がようやく完成するまでは先に完成していた南部小学校の校舎の一部を借り受けて授業を受けるという生活だったそうです。火災によって当時の資料はほとんど残されておりませんが、当時のご苦勞は筆舌に尽くしがたいものがあつたかと推察いたします。

今、時代と内容は異なりますが、生徒の皆さんは通常の学校生活を送れず、「新しい生活様式」なるものを提唱され、戸惑っていると思います。おそらくあと1～2年はこのような状態が続くことも考えられます。その間、ただ耐え忍ぶだけでは生き苦しくなってしまう。

皆さん、このようなときこそ「明日を夢見る」ことが大切です。大正11年、スペイン風邪の第二波が治まったころ本校の校歌が生まれました。その内容は「古里の山河に至誠・進取の二大校訓を託し、四季の移ろいを叙し、謙信、鷹山二公の遺風を顕彰し、人間性の深奥に呼び掛けて商業教育に志向する若人よ、世界に向かい高い目標を望んで、胸を開けと、未来への無限の可能性を強調している」と言われております。

皆さん、今をいたずらに不安がることなく、明日への希望を育む絶好の機会と捉えてはいかがでしょうか。「耐えて備えよ」しならば「未来は輝く」です。

創立118周年、誠におめでとうございます。